林修先生と学ぶみんなの食料安全保障

どうなる?世界の「食」 うする?日本の「食」

「食料安全保障」というと、ちょっと堅苦しく聞こえますが、私たちの 子どもや孫の世代まで、食料の心配が無い国にしていくには どうしたら良いかという、日本の未来にとって、とても重要な テーマです。なぜ重要なのか、そして、私たちにできる ことは何なのか。いくつかの視点から 探っていきましょう。



世界情勢の激変で、日本の「食」のリスクが拡大しています。

日本の「食」は多くのリスクを抱えています。その代表的なリスクが「食料自給率」の低迷です。 日本の食料自給率は、わずか38%※。食料の約6割を、輸入に頼っているのです。 ※2021年・カロリーベース

そして今、日本の「食」は、さらに新たなリスクに直面しています。ウクライナ情勢の影響です。 これまでも、異常気象などの影響で、世界の食料価格は高騰を続けていました。ウクライナ 情勢によって、価格の高騰に拍車がかかったのです。世界屈指の穀倉地帯であるウクライナ、 ロシアからの輸出が滞ったために、国際的な価格上昇が起きました。日本でも、様々な食品が 値上がりするなど、大きな影響を受けています。「食料は、安く、いくらでも輸入できる」。そんな 時代は、もう過去のものになったと言っても、過言ではないでしょう。

食料の6割を輸入に頼る日本



日本の「食」と「農」を支え、未来につなぐ「国消国産」。

では、いざという時に食料が不足しないためにはどうすれば よいのでしょうか。その答えを、JAグループは「国消国産」 として提唱しています。

「国消国産」とは、「国」民が必要として「消」費する食料は、 できるだけ、その「国」で生「産」する、ということです。



国民が必要として 消費する食料は



できるだけその国で 生産する



「国消国産」を実践していくことは、国内の農業に活力を与え、 食料自給率の向上など、食料安全保障の確立につながること はもちろん、私たちの「食」の安心と、食卓を囲む笑顔がいつま でも続く、豊かな食生活の実現につながります。

また、輸入によって途上国の食を奪わないことで、SDGsの実現 に貢献します。

食料自給率の向上

農業の活力

食料安全保障の確立

毎日の食の安心

豊かな食生活

途上国の食料を奪わないことでSDGsの実現に貢献

「国消国産」を地域で実践する「地産地消」

「国消国産」を地域で考えると 「地産地消」に。例えばファーマー ズマーケットを利用して地元産の ものを消費すれば、新鮮で美味し いだけでなく、輸送によるCO2の 排出削減にもつながります。







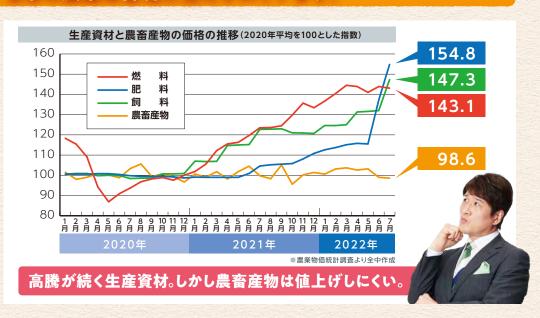




生産資材の高騰が続き、日本の農業は苦境に立たされています。

世界情勢の変化は今、農業の現場に、 大きな問題をもたらしています。肥料、 家畜の餌、燃料など農業生産に欠かせ ない資材価格の高騰が、経営を直撃し ているのです。このままでは農業を続 けることが難しいという、生産者の皆 さんの深刻な声も聞こえてきます。

物価の上昇は、私たちだけでなく、生産者にも大きな影響を与えているのです。では、この生産コストの上昇を、そのまま価格に転嫁できるかというと、生産者の皆さんの「できるだけ国産の農畜産物を食べていただきたい」との思いもあり、なかなか値上げしにくいというのが現状です。



適正な価格で「国消国産」を進める。それが「みんなの食料安全保障」。

しかし、このままでは、農業の経営は立ち行かなくなり、日本の「食」の未来は見えてきません。 生産者を支え、日本の「食」を未来につなぐために、 農畜産物の適切な価格形成に向けた環境づくり、 ルールづくりを模索する時が来ている、と言える でしょう。

私たちもまた、日本の「食」と「農」を支えるために、 意識を変えていくことが求められる時代になった のではないでしょうか。 「食料安全保障」といっても、そのカギは、私たちの意識と、身近な行動の中にあります。できるだけ国産のものを手に取り、食べることが、私たちにできる「国消国産」の実践であり、日本の生産者を応援することにつながります。それが私たち「みんなにできる食料安全保障」と言えるでしょう。



さあ「国産」を、食べて応援!

「JAタウン」で旬の農畜産物を、



今だけ送料無料で。

https://www.ja-town.com/shop/e/ekokusho/

期 間 2022年10月13日から11月末日まで

※既定数に達した場合、早く終了することがあります。

ガムタウン

詳しくは▼



